

下町屋台（八朔屋台）

この屋台は、下町が所有しています。正確な時期は不明ですが、元々は、1804年から1817年の間に作られたと考えられています。屋台の後方を覆う飾幕には、「虎」（英語では「竹林の虎」と表現）と題する絵が描かれています。下絵は、浮世絵画家、葛飾北斎(1760～1849)の作品と確認されています。貴重なガラス製の輝く目や、真鍮めっきの爪を持つ2匹の虎が向かい合う姿は、生命力や強さを表しています。みこしが動いているときには、刺しゅうされた笹の葉が風で揺れ、絵に迫力が増します。

この屋台は、1920年代後半まで、生出神社の八朔祭で毎年使用されていましたが、解体し、保存されました。都留市の主導により、高山祭屋台保存技術協会の協力で、1992年に復元が始まり、1995年に完成しました。他の3台の八朔屋台と同様、下町屋台は、都留市重要有形文化財です。